

講 評

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 藤井 善貴 様

本日は、ここ尾道市立向東中学校において、第7回中国地区中学校道德教育研究大会広島大会、第37回広島県中学校道德教育研究大会尾道大会が盛大に開催されましたこと、まずもってお喜び申し上げます。

ここ尾道市立向東中学校は、主体性を育む道德教育と深い学びの創造に向けて、研究の副題を「各教科の対話的な学びを促進する指導法の工夫を通して」とし、実践研究に取り組んでくれました。本校の研究から、各地区、各校の道德教育の更なる充実に向けて、学んでいただきたいよさを本県道德教育の重点目標に沿って大きく3点、また、今後に向けてお話をさせていただきます。

まず、本県道德教育の重点目標である道德教育の要となる道德科の授業改善に向けて、学んでいただきたい良さは、「対話」に重点を置いた授業づくりです。

道德科の対話的な学びにおいては、生徒がそれぞれの考えを伝え合うことを通じて、いろいろなものの見方や考え方があることに気づき、それぞれの考えの根拠や前提条件の違い、特徴などを捉え、自分の考えを多面的・多角的な視点から振り返って考えることが大切です。

本校では、先程の研究発表で説明されたように、これらの取組を基に、教師が対話に重点を置いた授業づくりを行うことで、生徒一人一人がしっかりと課題に向き合い、教師や他の生徒との対話や討論などにより、内省、熟慮し、自らの考えを深めていく学びの一端を見ることができました。

本日の第3学年の授業では、「缶コーヒー」という教材を用いて、「C 遵法精神、公徳心」の授

業を行いました。授業者（槇野先生）は、導入において、明確に決まっていないルールやマナーに係る身近なトラブルの想起を想起させることで、本時のテーマ、学習課題について、生徒一人一人に問題意識をもたせました。このような導入の工夫は、教材を通して考える際に、道德的な課題を自分との関わりで考えることにつながります。さらに、槇野先生が「あなたは3者の行動や言動に共感できますか。共感できませんか。」という発問、ワークシートを準備し、個人で考える時間と全体で共有する時間を設定されたことにより、生徒が道德的価値を実現することの難しさを自分との関わりで考え、価値を実現しようとする思いを確かにする生徒の姿が見られました。具体的には、「マナー違反を指摘することの難しさ」「失敗をしたときに、相手のせいにしてしまう弱さ」「当事者ではない自分が指摘することの難しさ」、このようなことについて、自分をしっかりと見つめ、全体共有したことをメモしながら、人間としての生き方について考えを深める生徒の姿が見られました。

第1学年では、「僕らの村の未来」という教材を用いて、「C 自然愛護」の授業を行いました。授業者（子川先生）による「話し合いたいことはどんなことですか？」という発問について、生徒は「村にいたらどうしますか？」という問いを設定し、話し合いました。参観された先生方は、生徒に話し合いたいことを問うことにより、議論することがねらいと離れてしまうと思われたかもしれませんが、生徒は、本時のテーマ「自然と共に生きるとはどういうことか」について教材を用いて考えるという意識があったため、自然と共に生きることについて、生命の連続性や利便性、地

域の在り方等の視点から、自らの考えを話していました。さらに、子川先生は、議論する視点を確認したり、自分との関わりで考えさせるための発問を行われたりしました。深めたいワード「①それはなぜですか？」や「向東の自然（海）で考えてみるとどうですか？」と生徒に投げかけることで、生徒は、二酸化炭素の削減や子供の遊び場にもつながる等の意見を出し合い、自然と共に生きることについて考えていました。

第2学年では、「あの子のランドセル」という教材を用いて、「A 自主、自律、自由と責任」の授業を行いました。授業者（村上先生）は、クラス全体での対話を班での話し合いに生かしたり、班での話し合いをクラス全体での話し合いに生かしたりしていました。ホワイトボードのまとめ方「①共通点するキーワードを口で囲む」を用いて、クラス全体で考えを整理するとともに、意見の理由を聞き合わせることで、生徒は誠実に行動すること、責任ある生き方について、見方を広げていました。そして、その広がった見方を踏まえて、班での話し合いを行うことで、クラス全体の中では語る機会のなかった生徒も、「自分は関係を築き直していくことは難しいと思うからこそ、よく考えて行動しないといけない。」「やってしまったことについて、これからも誠実に向き合うことで、関係を築き直すことが大切だと思う。」のように、1人1人が語ることで、対話を通して、自己の感じ方や考え方を明確にしていました。

ここまで御説明してきた生徒一人一人がしっかりと課題に向き合う導入の工夫、対話を通して考えを深めていくための議論の視点の明示や発問、ワークシートの工夫、ホワイトボードを用いたグループ対話と全体での対話の往還等は、生徒が自分自身のものの見方や考え方を明らかにした上で、「なぜ」「どうして」とさらに深く自己や他者と対話することを促し、内省、熟慮し、自ら

の考えを深めていく学びにつながることから、参考にさせていただきたいと考えます。

このような、「対話」に重点を置いた授業づくり、深い学びを創造するためには、生徒の言語環境を整え、生徒の発達段階や言語能力を踏まえた意図的、計画的な指導を行うことや自由に意見を述べ合える望ましい集団の育成、実態に応じた指導の工夫が大切です。例えば、数人のグループで討論する過程を経て、多人数での討論に移行したり、他の領域との連携により、学級活動の時間等で表現の技能を向上させたりする取組を意図的、計画に行うことなどが考えられます。本校では、朝の学級活動の時間を用いた向東対話タイムの実施し「質問を考える視点」の活用方法を習得させたり、表現の技能を向上させたりする取組を意図的、計画的に行い、道徳科が、その特質を十分生かせるように工夫しています。

また、習得した質問を考える視点、ホワイトボードのまとめ方の例示を他教科でも活用し、技能だけでなく、自由に意見を述べ合える望ましい集団の育成を図っています。

これらの取組は、一部の教職員で取組むのではなく、全教師で協力して行うことで、より一層の効果を発揮することができます。本校においては、全教師が協力し合う指導体制づくりについても様々な取組を行われました。このことは、本県重点目標の「組織的・計画的に全教師で進める道徳教育」に関わるものであり、参考にさせていただきよさの2点目です。道徳教育の一層の充実に向けては、全教師が学校の道徳科の基本方針を十分に踏まえ、どのような生徒を育てようとするのか、そのために道徳科はどのような役割を果たすのか、また、どのような指導をしようとするのかということについて、共通に理解していくことが大切です。向東中学校においては、リレー道徳、指導方針の具現化により、共通理解、共通実践できるようにするとともに、クラウドを用いること

で、取組、記録を繋げるシステムをつくっています。

このような取組、システムは、道徳教育推進教師や教職員、研究内容が変わる中でも、校長の方針の下、全教師が協力しながら取り組みを進めていく体制作りにつながっていくことから、大変重要な取組であると言えます。

最後に3点目、カリキュラム・マネジメントによる道徳教育の充実に向けて学んでいただきたい良さは、家庭や地域社会との連携です。道徳教育の一層の充実に向けては、家庭や地域の人々とともに生徒を育てていくという視点に立ち、家庭、地域社会との連携を深め、学校内外を通じた生徒の生活の充実と活性化を図ることが大切です。本校では、コミュニティスクールの仕組みを生かし、様々な人との出会いを仕組み、道徳教育の充実につなげています。このような生徒が学校外の様々な人に出会う活動は、生徒の世界を広げ、実生活や実社会の生きた文脈の中で様々な価値や自己の生き方について考えることができる貴重な経験となることから、ぜひ参考にさせていただくと考えます。

最後に、今後の研究の一層の充実に向けて、1点申し上げます。

それは、「デジタル学習基盤の活用」です。

デジタル基盤の活用は、これまでの取組と方向性を異にするものではなく、これまでの土台の上に、さらに、情報技術の特性・強みをもって、学習活動における子供たちの環境をより豊かにし、また、全ての子供たちにその環境をより容易に提供できるという点で大きな意味をもつものです。例えば、児童生徒がクラウド環境を生かした他者参照を行うことで、自らの学びの手がかりとしたり、自分では気づかなかった視点を追加し、学びを今まで以上に深めたりすることが可能となっています。また、クラウド環境を利用することで、従来の机間指導のみでは困難であったクラス全

員の児童生徒の取組状況や考えを教師が瞬時に把握することがより一層容易になり、これまでは教師が気づくことが難しかったり、気づくまでに時間がかかってしまったりしていた少数派の気持ちや考えを意図的に取り上げて学級の生徒に広げることで、多面的・多角的に考えさせることに繋げられるかもしれません。一方で、デジタル基盤の活用は、それ自体が子供たちの資質・能力に直結するというわけではなく、学びの専門職である教師の役割が合わさり、主体的・対話的で深い学びの実現を通じて、子供たちの資質・能力の育成に繋がっていくことから、是非、今後、主体性を育む道徳教育と深い学びの創造、対話による深い学びに向けて、デジタル学習基盤の活用による道徳教育を充実させていく教師の役割等、取組、研究を推進していただきたいと思います。

本日は、濱原校長先生をはじめとして、向東中学校教職員の皆様には、貴重な授業公開、研究報告をいただき、本当にありがとうございました。また、本研究会の開催に係り、御尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

本日の公開研究会が、ご参加いただいた皆様の学校において、さらなる道徳教育の充実につながるとともに、各地における道徳教育が更に充実・発展するようお願い申し上げ、私からの講評とさせていただきます。

ありがとうございました。